

おじいちゃんのお米

高鍋町立高鍋西小学校 3年 長友 春凱

ぼくは、ごはんが大好きです。ぼくの家のお米は、三また町に住んでいるおじいちゃんとおばあちゃんが大切に育ててくれたお米です。お母さんがお米がなくなるとおばあちゃんから送ってもらいます。

れんげ草の田んぼをトラクターにのってたがやす時、ぼくも一どだけトラクターにのっておじいちゃんとながやしました。ぼくは楽しかったけど、おじいちゃんはなんでもななでもたがやしてたいへんそうでした。

ぼくは、いねかりの手つだいもしたことがあります。おじいちゃんのお米はいねをかった後せんたくものみたいに田んぼにほします。お米がついたいねを運ぶのが、ぼくのお手つだいです。いねを運ぶ時だきかかえるとちくちくしていたかったり、かゆかったりします。おじいちゃんおばあちゃんは、かゆくないのかなあと思いました。みんなががんばりたいねかりはとつてもつかれたけど、新しいお米を早く食べたいと思いました。

秋になると、おばあちゃんから

「新米ができたよ。」

と電話がきます。新米をお母さんがたいている時、ごはんのおいしそうなおいがしてきます。

「早く食べたいなあ。どんなおいしい味がするかなあ。」

とわくわくします。

ぼくは、白ごはんが大好きです。とくに、しおおにぎりがいすきです。少しだけしょっぱいけどごはんがあまく感じるので、ふしぎだなあと思います。

これからおじいちゃんおばあちゃんがつくってくれるお米をたくさん食べて、元気をもらいたいです。